

令和5年度 保育園関係者評価

施設評価シート

すずかけこ保育園

保育園関係者評価委員会による評価

対象評価： 最終評価

評価日時： 令和 6年 2月9日(金) 15:00～

場所(すずかけこ保育園会議室)

【保育園関係者評価委員会構成】

学識委員 1名 地域委員 1名 保護者委員 2名

【園の教育・保育目標】

「明るく のびのび 元気な子」  
 ～一人ひとりのえがおを大切にしよう～  
 ～子ども達に寄り添い心を豊かにする～

【本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した  
 保育園評価の具体的な目標や計画】

命の尊さや季節を感じよう  
 ～飼育や栽培等を通して豊かな感性を育む～

天竜厚生会全体の教育・保育理念は「感性豊かで「生きる力」をそなえた子どもを育てるために」である。理念に基づいて、当園は「明るく のびのび 元気な子」を教育・保育目標に掲げている。今年度は、子ども達が動植物の飼育・栽培・自然物(草花や木の実)の実体験を取り入れていく中で、豊かな感性を育ていけるような教育・保育活動を展開していく。

【評価基準について】

- 4・・・十分に達成されていた
- 3・・・ほぼ達成されていた
- 2・・・取り組みは見られるが達成が十分ではない
- 1・・・取り組みが不十分であった

項目	園評価	評価理由	最終評価	評価委員から
<b>I. 目標の理解</b> 1. グランドデザインを理解している 2. グランドデザインを意識している 3. 重点目標を意識している 4. 重点目標を意識して取り組んでいる	3	重点目標を意識した活動を保育に取り入れ、その取り組みや子どもの様子を職員会議等で定期的に報告したことで常に重点目標を意識した保育を展開することができた。野菜や生き物、自然物の掲示や栽培を通して、取り組みが身近に感じられるようにした。グランドデザインを掲示してアピールはしてきたが、職員間の中で意識の違いがあり、定着は不十分と感じる部分がある。	4	園は住宅・商業施設に囲まれているため、職員が意識をして自然を計画の中に盛り込んでいかないと自然に触れる機会を作り出すことが難しい環境にある。その中で、今年度の重点目標である飼育や栽培、季節を感じる保育をここまで目に見える形(バケツの稲栽培等)にできたことは職員の努力が感じられる。飼育や栽培は難しいが、子ども達と一緒に考え、実践する中で、時に失敗を経験しながらも子ども達の成長や学びにつながっていると感じる。
<b>II. 教育・保育の計画性と内容</b> 1. 指導計画の作成 2. 環境への配慮 3. 教育・保育活動の実践 4. 計画と実践の評価・反省	3	子どもの興味や関心に合わせた遊びの環境や保育を提供することが出来たと思う。季節の絵本や自然物を常に子ども達の手の届く所に掲示することを計画的に進めてきた。行事の反省が担当者だけの反省になってしまっていたので、園全体での話し合いの場を設けたり、次に活かすためにもしっかりと全員の意見を聞けるようにしたりと取り組んでいきたい。掃除が行き届いていない部分が見られるため、掃除の分担や回数を見直していきたい。	4	行事に対して職員全体での反省等は改善策の提示もあり、今後、改善されることが期待できる。園の掃除については掃除分担や掃除の時間帯を見直し、こまめな清掃を心掛けようとする職員の意識は確認できた。掃除を園の職員だけで行うのではなく、子ども達や保護者にも掃除を協力してもらえような体制作りをしてよいのではないかとと思う。
<b>III. 子どもにとっては</b> 1. その子らしさが認められる 2. ゆったりとした生活 3. 自然に触れて心行くまで遊ぶ 4. いろいろな人の中で自分を知る	3	個々の対応を丁寧にし、子どもの個性や意志を尊重した関りを職員1人ひとりが心掛けて対応した。こども達の小さな気づきにしっかりと対応できるように「つぶやき」を日々の活動に乗せるよう意識した。個々の対応が精一杯となってしまい、子ども達を待たせてしまうこともあったため、ゆとりある保育をするための方法や環境を考えていきたい。大きい子と小さい子の関りを職員がしっかりと意識して計画的に取り組まないと関りが難しい環境のため、園全体で計画的に取り組んでいきたい。	4	毎日の活動の様子に子どもの「つぶやき」を入れ保護者が子どもの様子を具体的にイメージできるようにする努力は重要だと思う。日々の保育者の子どもの関わり方を見ていると子どもを大事にしていることが伝わってくる。大きい子と小さい子の関りは大切なことだと思うが、園舎も園庭も別々であるため、計画的に取り組んで欲しい。

<p><b>IV. ファミリーにとっては</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 気軽に相談できる</li> <li>2. いつでも保育に参加できる</li> <li>3. 必要な情報が得られる</li> <li>4. 保育を通して地域に親しむ</li> </ol>	3	<p>保護者への伝達を丁寧に行う意識をしているが、早番や遅番の送り迎えの際に保護者対応の時間が重なり時間がかかってしまうことがある。毎日、担任が口頭で子どもの様子を伝える努力はしているが時間帯によっては難しさを感じる。必要な場合は個別相談の時間を取り個々に対応している。保育参加を行い、日々の園での様子を見てもらう機会を設け、個別面談をして家庭での様子を聞き、園と家庭とで連携を図れるようにした。</p>	4	<p>日頃から送迎時に子どもの様子について担任だけでなく、いろいろな先生から聞くことが出来ている。送迎の際の保護者への伝達は、なかなか一人一人のすべての保護者と丁寧に行うことは時間的に難しい面もあるかと思うが、職員が意識して取り組んで欲しい。園はいつでも子どもの事について相談できる場であってほしいと思う。園と家庭とで一緒に子どもの成長を見守り、一緒になって考えていく大きな存在でいてほしいと思う。</p>
<p><b>V. 地域にとっては</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 誰でも親しく訪ねられる</li> <li>2. 園の内容がよくわかる</li> <li>3. 緊急の時頼りになる</li> <li>4. 子育てに夢がもてるように</li> </ol>	3	<p>今年度は中学生の職業体験やサマーショートボランティア、小学生との交流や近隣の幼・保の交流等、積極的に地域のかかわりを持つことができた。地域の方の畑でのシャガイモや芋掘り、ミカン狩りや梅狩り等、地域の方との交流も増えた。大きい子は地域の方との交流が増えたが、小さい子は大きい子が交流をするのを見ることでしか参加できていない部分もある。ブログの更新の回数を増やし、毎回メールにてブログの更新を保護者に伝え、閲覧回数も増えたが、日々の業務に追われ、どうしてもブログの更新がタイムリーに出来ずにあげるのが遅くなってしまった。</p>	3	<p>コロナ禍以前は高齢者との触れ合いが盛んにあり、地域の方々と触れ合う機会が多かった。しかし、まだ、そこまで戻っていない現状は理解できた。地域の方と積極的に関わることができるように計画的に取り組んで欲しい。小学校が隣にあるという利点をもっと活かして今後は盛んに交流して欲しい。ブログにおいても計画をしっかりと実行していけるような体制作りをお願いしたい。</p>
<p><b>VI. スタッフにとっては</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個性が生かされる</li> <li>2. 快適な職場づくり</li> <li>3. 生活や遊びの文化が伝えられる</li> <li>4. 視野を広げて自ら学ぶ</li> </ol>	3	<p>園内研修や外部研修等、自分のスキルアップにつながる機会がある。研修報告を職員会議で丁寧に伝達したり、自分の興味のある研修を選んだりできていく。職員同士話しやすい雰囲気があり、相談や報告がしやすい。職員同士お互いに思いやりを持っている。その反面、未満児棟、以上棟と建物も別々であるため、他クラスの生活の流れは職員が意識しないとわからない部分や全体に目が向けられていないと感じる。</p>	4	<p>職員が園生活を毎日楽しく過ごすことができれば子ども達もきっと園生活を楽しく過ごせると思う。そこはつながっていると思う。子ども達のためにも職員一人一人が自分自身が楽しく過ごせるような快適な職場作りに努めてほしいと願う。そして子どもと一緒に遊び込み、子ども達との信頼関係を築いていって欲しい。</p>